

ゆり地域支援だより

令和2年12月25日発行 第4号 秋田県立ゆり支援学校 地域支援部

特別支援教育セミナー等を通して学んだこと

地域支援部主任 桐田 明日子

本校は、特別支援教育セミナー及び特別支援学級スキルアップ授業研修の協力校として、今年度は由利本荘市・にかほ市の小学校11校、中学校10校を訪問しています。特別支援学級や通級指導教室、通常学級の授業参観や研究会等を通し、特別な支援を要する児童生徒だけでなく、教室にいる多様な子どもたちにとっても助けになるような支援の工夫をたくさん学ぶことができました。今号ではその一部をご紹介します。

活動の見直し

- ・一日や1時間の流れを明示するときに、今どこをやっているかが一目見て分かるようにする。
- ・終わった活動には印をつける（印のつけ方で、即時評価などにも活用できる）。

説明や指示の仕方

- ・学習の約束事を予め決め、繰返し指導で定着できれば、授業中に何度も指示する必要がない。
- ・指示は1回に1つにすると分かりやすい。
例) 「◎◎をしまします」「◆◆を出します」「○ページを開きます」「△△します」
- ・全体への指示は、活動に入る前に行う。作業している間は、個別の支援を行う。
- ・約束事も、活動に入る前に確認する。困ったときにどうしたらいいかも確認しておく、助けを求める力を育てられる。
- ・注意の集中を維持して話を聞くことが難しい子 → 手順表などの掲示（情報の見える化）
聞き逃す心配がないことで、安心して活動できる。
- ・自分の思い通りにふるまいがちな子、思い通りにいかないと暴言・暴力が出てしまう子
→ アイメッセージで気持ちを伝えることで、その子を否定しない関わり方をする。

学習内容・方法の工夫

- ・複数の教師で指導に当たる場合は、しっかり役割分担し、いつどこで誰が何を話すかを共有しておく、児童が戸惑わない。
- ・勝ち負けにこだわりがある子、負けるとイライラして不適切な行動につながりやすい子
→ 自分たちで考えたり作ったりしたゲームは、比較的協力し合える。
友達と協力してミッションをこなしたり、強敵（教師など）を倒したりする場面を設定する。
- ・自閉スペクトラム症などの子どもには、好きなキャラクターや好きなものの擬人化などを活用すると、直接的な指示や指導よりも入りやすい場合がある。
- ・普段の生活や行動を見直し改善する活動では、「だめだから直す」のではなく、できるようになったことをしっかり認め、「できる力があるから工夫する」という視点で提示するほうが、児童生徒の自己肯定感を大事にできる。

先生方の工夫のほんの一部ですが、授業のユニバーサルデザイン化にも通じる、より多くの児童生徒の学びを支える支援も含めて紹介しました。たくさん学ばせていただき、本当にありがとうございました。

高等部「職業・家庭」の学習について

高等部では、実践的・体験的な学習活動を通して、習得した知識や技能を生活や職場で生かすための学習を行っています。今回は、一般就労を目指している生徒たちの教科「職業・家庭」の学習の様子を紹介します。

職業

「職業」では、「立ち直る力をつけよう」という単元名で卒業後の生活にもつながる困難な状況への対応を考えたり、自分に合う対処法を選択したりする学習に取り組みました。

1	立ち直る力をつける中で、自分が学びたいことをみつけよう！ ・自分の性格やこれまでの実習日誌、教科書を参考にしながら、立ち直る力をつける中で自分が学びたいことを考える。
2 ・ 3	立ち直る方法を知ろう！ ・本単元で学習することを知る。 ・立ち直るための3つの方法（①リフレーミングする②人に相談する③気分転換すること）を知り、実践してみる。
4 ・ 5	ポジティブに考える方法（リフレーミング）を体験しよう！ ・リフレーミングカードを使って、ネガティブな言葉をポジティブな言葉に変換する方法を知り、課題に回答する。
6 ・ 7	様々な人をリフレーミングして、どのように関わればいいのか考えよう！ ・リフレーミングカードを使って、ネガティブな言葉をポジティブな言葉に変換する。 ・リフレーミングした言葉と関わり方の選択肢（自分から話す、少し距離を置くなど）を活用して、どのように関わっていけばよ

<生徒の「学びたい」から作成する単元計画>

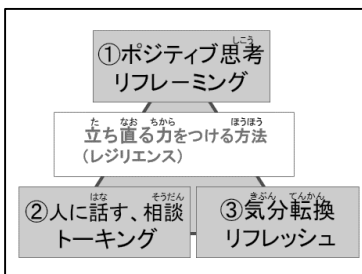
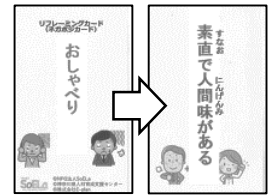
これまでの課題や困った状況、自分の性格などから自分が学びたいことを考えました。「職場の人に注意されてどのように立ち直るか」、「イライラしたときの立ち直り方」などの意見が挙がり、それらを単元計画に反映させました。

<立ち直るための方法を焦点化>

立ち直る力をつけるための方法を下図のように簡略化して教えました。

<ポジティブ思考に変換>

ネガティブな言葉をポジティブな言葉に変える方法をリフレーミングカード※（右図）で学びました。※NPO法人 SoELa



知識として学ぶことと実際の失敗や困難な状況などの具体的な場面で実践（技能）を積んでいく必要があると感じました。

家庭

「家庭」では、「印象の良い衣服を着こなそう」という単元で、卒業後に社会人としてどんな衣服を着ると「印象が良く見えるか」について考えました。

1 ・ 2	印象の良い服とは何だろう ・インタビューを通して、印象の良い衣服とはどんな衣服かを知る。 ・聞き取った内容から、キーワードをまとめ、印象の良い衣服とはどんな衣服かを考える。
3 ・ 4	「清潔感がある」とは何だろう ・複数の写真を見て、「清潔感がある」身だしなみとは、どのようなことかを考える。 ・実習や出勤前にチェックできるような、オリジナルのチェックリストを作る。
5 ・ 10	印象の良い服を選ぼう ・TPOとは何かが分かる。 ・印象の良い服を選ぶためのポイントが分かる。 ・インタビューを通して、印象の良い服の具体例を考える。
11 ・ 14	サイズや状態で服を選ぼう ・実際に洋服店で働いている人に来校して頂き、衣服についての話や自分に合う衣服のサイズを伺う。 ・状態に応じた衣服の選択ができ、手入れの方法が分かる。

☆アンケートの実施→生徒、保護者それぞれにアンケート

<卒業後を想定して>

「印象良く見られたい」という生徒の思いから、インタビューを通して「印象がいい衣服」について考えました。また「清潔感がある」とはどんなことかを考え、友達同士でチェックしました。

<地域との連携>

ユニクロフレスポ本荘店の店長さんにお越しいただき、衣服についての専門的で、生活に生かせるお話を伺いました。お話を聞いた後、実際に自分達で衣服を組み合わせ、「印象の良い衣服」を考える学習を行いました。

「衣服」は日常生活の指導の一つでもあります。買い物をする人や自分で好きな物を選択することは「余暇活動」にも繋がります。「自分で選ぶ」経験や「自分一人の力で購入する」経験など、年齢や学年などの段階に応じた経験があるといいのではないのでしょうか。

～どんなことでもご相談ください！～
秋田県立ゆり支援学校 地域支援部

TEL : 0184-27-2630

E-mail : yuri-s@akita-pref.ed.jp

HP : <http://www.yuri-s.akita-pref.ed.jp>